

吉田善吾関係文書(寄託)目録

国立国会図書館憲政資料室
2011.3 PDF作成

凡例

※本資料群は、書簡、書類、新聞、その他 に分けた。

※各資料の記述項目は次のとおり。

複製資料番号、原本番号、タイトル、作成者、作成年月、内容・摘録、記述法、
用紙、数量(原本のもの)、付属資料、備考

※閲覧、複写は複製資料があるものは、そちらを利用。複製資料から複写の場合には、電子式複写は可能。

吉田善吾関係文書

複製資料番号	原本番号	タイトル	作成者	年	月	日	内容・摘録	記述法	用紙	数量	付属資料	備考
書簡												
1	101	芦田均書簡 吉田善吾宛	芦田均	昭和22	5	12	新緑の時節と相成候処、人間 独り秋色に低迷して新緑の気 に乏しきを感じ申候。	墨書	便箋	2枚	封筒	年は消印 より
2	102	及川古志郎書簡 吉田 善吾宛	及川古志郎	昭和18	2	20	民国も参戦後朝野に目標確立 し前途に光明を認め得るとの 御観察、為邦家大慶至極。東 京方面の物資不足の伝聞れ ど、左程には感じ得られず。	墨書		1通	封筒	
3	103	大隈信常書簡 吉田善 吾宛	大隈信常	昭和17	11	12	肥前協会を代表して支那方面 艦隊司令長官就任を祝う。	墨書		1通	封筒	
4 - 1	104-1	古賀峯一書簡 吉田善 吾宛	古賀峯一	昭和18			山本氏の戦死、返すがえすも 遺憾。	墨書	便箋	3枚	封筒	年は内容 より
4 - 2	104-2	古賀峯一書簡 吉田善 吾宛	古賀峯一		10	27	福地参謀へご伝言の件別紙に 認める。	墨書	便箋	4枚	封筒	
4 - 3	104-3	古賀峯一書簡 吉田善 吾宛	古賀峯一		11	21	小生無事着京。御令息の安否 に就いては遺憾ながら明言す るを得ざる状況。	墨書		1通	封筒、 追伸二 別紙	
5	105	近衛文麿書簡 吉田善 吾宛	近衛文麿	昭和15	9	24	秩父宮殿下の御内意は、貴下 が紀元二千六百年奉祝会の顧 問を引続き御在任。	墨書		1通	封筒	近衛は紀 元二千六 百年奉祝 会会長
6	106	小林書簡 吉田善吾宛	小林	昭和14	9	3	拓務関係で、新内閣に期待	墨書		1通	封筒	
7	107	渋沢敬三書簡 吉田善 吾宛	渋沢敬三	昭和18	5		錦地に罷出候節、格別の御懇 遇等、深謝仕候。	墨書		1通	封筒	消印は、 18.6.2
8 - 1	108-1	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和15	7	9	中支、南支を一巡。主要部隊 の作戦を一通り諒得致候	墨書	便箋	7枚	封筒	年は内容 より
8 - 2	108-2	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和15	9	8	病气入院辞職と矢継ぎ早の報 等、御同情に絶えず	墨書	便箋	3枚	封筒 [軍事 郵便]	年は消印 より
8 - 3	108-3	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和15	10	13	元気な便り拝見。発病当時阿 部軍務局長が、君の身を案じ 候。	墨書	便箋	3枚	封筒 [軍事 郵便]	年は消印 より
8 - 4	108-4	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和16	4	17	愛子結婚の話、万事お委かせ 申上げたく。	墨書	便箋	4枚	封筒 [軍事 郵便]	
8 - 5	108-5	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和16	5	18	始関家と貴兄に対して御迷惑 の混雑御配慮相かけ候段御海 容願上候	墨書	便箋	4枚	封筒	年は消印 より
8 - 6	108-6	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和16	6	4	愛子の結婚につき、橋渡しか ら媒酌まで万事御懇情に預 る。	墨書		1通	封筒 [軍事 郵便]	年は消印 より
8 - 7	108-7	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和17	12	17	御留守宅一同至て御元気。南 方来春の快報を待ちつつ万端 準備中	墨書	便箋	4枚	封筒	支那本面 艦隊 吉 田大将閣 下
8 - 8	108-8	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和17	12	22	中華民国の育成施行に就き真 剣に実現を計ることと相成海 軍は元より首相兼陸相にも在 来の施策に大改良を加ん熱意 を有す。	墨書	便箋	3枚	封筒	
8 - 9	108-9	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和18	3	24	ビルマの独立八月一日を目標 としてパーモ長官を招き方 針、希望を明示	墨書	便箋	4枚	封筒	封筒左上 に 18.3.24 と鉛筆で 記入
8 - 10	108-10	嶋田繁太郎書簡 吉田 善吾宛	嶋田繁太郎	昭和18	5	29	山本元帥の戦死大痛恨事。	墨書		1通	封筒	書簡を入 れた袋あ り

吉田善吾関係文書

複製資料番号	原本番号	タイトル	作成者	年	月	日	内容・摘録	記述法	用紙	数量	付属資料	備考
8 - 11	108-11	嶋田繁太郎書簡 吉田善吾宛	嶋田繁太郎	昭和18	11	8	大東亜会議昨七日終了。貴兄12月1日の予定にてご帰還ことに内定。	墨書	便箋	2枚	封筒	封筒に墨書で（一八、一一、一六受）
9 - 1	109-1	杉山元書簡 吉田善吾宛	杉山元	昭和18	6	21	御芳志御礼9-2と同文。	印刷		1通	封筒	封筒宛先が上海支那方面艦隊司令部
9 - 2	109-2	杉山元書簡 吉田善吾宛	杉山元	昭和18	6	21	御芳志御礼9-1と同文。	印刷		1通	封筒	封筒宛先が目黒区柿木坂
10 - 1	110-1	高田保馬書簡 吉田善吾宛	高田保馬	昭和15	9	6	此度健康上海軍大臣御辞任の由拝承、御快癒の程衷心より御祈り申上候	墨書		1通	封筒	
10 - 2	110-2	高田保馬書簡 吉田善吾宛	高田保馬	昭和15	11	17	海軍大将御栄進を悦び申上候	墨書		1通	封筒	
11	111	寺岡謹平書簡 吉田善吾宛	寺岡謹平		2	25	別冊海南島時代の雑録二部御高覧に供す。	墨書	便箋	2枚	封筒	
12 - 1	112-1	東条英機書簡 吉田善吾宛	東条英機	昭和12			名刺（海軍中将吉田善吾閣下と墨書）	墨書		1枚	封筒（軍事郵便）	封筒の肩書き聯合艦隊司令長官、名刺の肩書き関東軍参謀長
12 - 2	112-2	東条英機書簡 吉田善吾宛	東条英機	昭和15	10	5	名刺（謹祝御退院吉田閣下と墨書）	墨書		1枚	封筒	退院の記載と、消印
13	113	豊田貞次郎書簡 吉田善吾宛	豊田貞次郎	昭和12	12	12	南京の城も差迫り武威赫々。	墨書		1通	封筒	年は消印より
14	114	永野修身書簡 吉田善吾宛	永野修身	昭和19	6	22	貴地での御歓待、贈与に預り、難有感謝。	墨書		1通	封筒	年は消印より
15	115	堀悌吉書簡 吉田善吾宛	堀悌吉	昭和18	6	16	山本君の戦死壮烈言語に絶する。後任の古賀氏の武運長久を祈る	墨書	便箋	2枚	封筒	書簡のための袋あり
16	116	松平頼寿書簡 吉田善吾宛	松平頼寿	昭和15	9	10	御退官に伴い帝国水難救済会評議員御解任のことと相成り候	墨書		1通	封筒	松平は帝国水難救済会会長
17	117	矢野義雄書簡 吉田善吾宛	矢野義雄	昭和15	10	22	御地は至極閑静の趣御療養には誠に好適	墨書		1通	封筒	年は消印より
18	118	山下亀三郎書簡 吉田善吾宛	山下亀三郎	昭和19	5	29	一人の乙女小間使御奉公申上度候	墨書		1通	封筒	年は消印より
19 - 1	119-1	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六	昭和11	9	23	新聞切抜を送る。	ペン	附箋紙	5枚	封筒、5枚のうち4枚は新聞切抜。	『日米時報』昭和11年8月29日の切抜き（練習艦のニューヨーク入港を伝える）
19 - 2	119-2	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六	昭和14	12	29	電報の通り六三潜移動作業第一四は昨日成功。	墨書	便箋	3枚	封筒	封筒裏に鉛筆で昭和十四年
19 - 3	119-3	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六	昭和15	10	7	暫くは温泉当転地御療養の御事と存居候	墨書	便箋	1枚	封筒	年は消印より

吉田善吾関係文書

複製資料番号	原本番号	タイトル	作成者	年	月	日	内容・摘録	記述法	用紙	数量	付属資料	備考
19-4	119-4	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六	昭和15	10	15	艦隊として現状に於てはたに一意戦備の邁進の外無之と覚悟致し候。	墨書	便箋	2枚	封筒	
19-5	119-5	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六	昭和16	12	16	布哇襲撃の件、戦果は予想とおり…第一段作戦は順当に進捗すべきが、次が大問題。	墨書	便箋	6枚	封筒	書簡のための袋2つあり、年は内容と同袋の記載より
19-6	119-6	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六	昭和17	4	18	昨日終に本土空襲を見たるは遺憾至極。当面の問題は一回海上にて敵を手痛くやっつけるに在り。	墨書	便箋	3枚	封筒	年は消印より
19-7	119-7	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六	昭和17	10	11	ご長男逝去の報、弔申上候。当方面はここ一週間が山。	墨書	便箋	3枚	封筒「軍事郵便」	
複製なし	119-8	山本五十六書簡 吉田善吾宛	山本五十六		9	6	封筒のみ					
20	120	吉田善吾書簡 吉田善吾宛	吉田善吾	昭和14	8	30	海軍大臣就任への祝辞	墨書		2枚	封筒	同郷出身同姓同名の吉田善吾から
書類												
21	121	所見雑録	吉田善吾	大正9	5	1	艦隊教育など	ペン	海軍便箋	1綴(26枚)		
22	122	日記	吉田善吾	昭和17			昭和17年末から昭和24年3月。間の期間、抜けあり。	墨書、ペン	日記帳	1冊		『自由日記』商務印書館を使用
23	123	清閑隋記	吉田善吾	昭和21	8		父の思出、子供の時の思出など	ペン	ノート	1冊		表紙に「昭和廿一年夏起」
24	124	清閑隋記 別冊	吉田善吾	昭和22	1		清閑隋記の続き。近衛内閣に留任の前後など	ペン	ノート	1冊		
25	125	元海軍大将吉田善吾談収録	水交会	昭和31	12			ペン		1冊		水交会嘱託元海軍中将小柳富次氏が聴取
26	126	思出の履歴書	吉田善吾				幼少の頃から、明治34年まで、最後にメモ。	ペン	便箋	15枚		
複製なし	127	[メモ]	吉田善吾				漢詩・漢文抜書き	墨書		1冊		
28	128	住所寄留簿謄本	東京市目黒区長	昭和8	1	25		ペン		1綴	封筒	封筒は佐賀市役所
29	129	奉職履歴副本					昭和20年6月1日まで記載	墨書、ペン		1冊		
新聞												
複製なし	130	海軍大異動		昭和12	12	2	吉田善吾写真あり	活版		1枚		読売新聞切抜
複製なし	131	吉田海相論	白木正之	昭和14				活版		1枚		名古屋新聞切抜
複製なし	132	中日貿易新聞		昭和29	9	21	「中日親善者吉田一家与王重信合影」	活版		1部		1954年

吉田善吾関係文書

複製資料番号	原本番号	タイトル	作成者	年	月	日	内容・摘録	記述法	用紙	数量	付属資料	備考
複製なし	133	政財界の系譜(45)					吉田善吾写真あり	活版		1枚		新聞切抜
その他												
34	134	午餐会案内		昭和14	10	1	午餐会案内	活版		1枚	封筒	
35	135	紀元二千六百年奉祝会事業案内		昭和15	11	1	宮崎神宮境域拡張整備工事竣工奉獻式等案内、橿原神宮境域並畝傍山東北陵参道拡張整備工事竣工奉獻式等案内	活版		9点	封筒内に各々の案内文、返答用はがき、式次第、参列証、及び橿原神宮略図	
複製なし	136	海軍兵学校卒業式案内	草鹿仁一	昭和16	11	1	海軍兵学校卒業式案内	活版		1枚	封筒（吉田恒子宛）、式次第	海軍兵学校長